

第1回 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 2020年2月3日（月） 15時00分～16時30分
- 2 場 所 豊岡市役所本庁舎 7階 第2委員会室
- 3 出席者 ≪委員≫（委員名簿順）
浅野 良一委員、中川 茂委員、中島 章博委員、河本 美佳委員、西垣 浩文委員、二方 道正委員、平尾 洋委員、澤田 雅子委員、小田 知子委員、高階 正夫委員、増田 克志委員、加藤 勉委員、綱木 直美委員、貝口 志保委員、藤田 明治郎委員、木村 尚子委員
（欠席）西谷 佳代委員、宮崎 裕紀委員

≪事務局≫
嶋 公治教育長、堂垣 真弓教育次長、飯塚 智士こども教育課長、木下 直樹こども育成課長、永井 義久教育総務課長、木之瀬 晋弥課長補佐、野崎 律男主幹、太田垣 輝尚主任
- 4 傍聴者 2名
- 5 主な内容
 - (1) 挨拶
嶋 公治教育長から挨拶
※内容については、「6 主な発言内容等（要約）（1）挨拶」のとおり
 - (2) 会長・副会長の選任
会長に浅野 良一委員、副会長に中川 茂委員が選任された
 - (3) 諮問
嶋 公治教育長から、浅野 良一会長に対し、『豊岡市立小中学校における適正規模・適正配置のあり方について』として諮問を行った
 - (4) 議事
ア 報告事項
(ア) 市の現状について（資料3-1～資料3-5）
(イ) 適正規模・適正配置の検討にあたって（資料4-1、資料4-2、資料5、資料6）
事務局より、資料をもとに説明を行った
※委員からの質問等については、「6 主な発言内容等（要約）（2）報告事項に対する質問等」のとおり
イ 審議事項
(ア) 会議等の情報公開について
情報公開については、次のとおり取り扱うこととされた
 - a 2回目以降の会議は非公開とし、傍聴については行わない
 - b 会議資料、議事録については原則公開とする
 - c 議事録については、発言した委員の名前は伏せ、発言者が特定されない程度に要約したものとする

ウ その他

(ア) 今後のスケジュール等について

事務局より、今後のスケジュール（案）を示した

(5) 意見交換

各委員より、現時点での子どもたちの現状についての思いや、審議会に対する意気込み等が語られた

※意見交換の内容については、「6 主な発言内容等（要約） (4) 意見交換」のとおり

6 主な発言内容等（要約）

(1) 挨拶

（嶋 公治教育長）

教育長の嶋でございます。よろしくお願いいたします。

この適正規模・適正配置の問題は、多くの方が、それぞれの立場で、興味や関心を持たれております。

私が、教育長になって、最初の議会が平成 29 年 6 月議会でした。その時、ある議員から、「子どもたちがどんどん少なくなっているが、小中学校の統廃合について、どのような考えを持っているか。」といった質問がありました。私はその時、こう答えています。「従来から、本市の地理的・地域的特性から、標準学級数や学級編成基準だけを根拠とする統廃合は行わない。」あわせて、「しかしながら、小規模校の教育課題はあるので、それをどのように解決するかは、保護者や地域の方と検討する必要がある。その中で、統廃合のことについて話題が出れば、一緒に協議をしていきたい。」と、このような、ぼんやりとした答え方をしています。

ところが、子どもの数の減り方は、ここ数年、加速されてきています。小学校の場合ですが、2013 年度から 2019 年度までの 6 年間を見ますと、子どもの減り方は 273 人でした。ところが、2019 年を起点として、2025 年度まで、向こう 6 年後では、797 人減る見込みです。かなりスピード感が違ってきている、そういう危機に立つことになります。

学級替えができない規模の学校を小規模校といいます。1 学年 2 学級以上ないとクラス替えができませんので、11 学級以下の学校が小規模校にあたります。市内に小学校は 29 校あり、そのうち 25 校が小規模校にあたります。更に、児童数が 50 人以下の学校は、8 校あります。6 年後にはこれが 10 校になります。また、複式学級は、今、9 校で、市内の小学校の 31%が複式学級の学校です。これが、6 年後には 12 校で 41%と、半分近くになってしまう。こんなスピードで子どもたちの数が減っていきます。

そこで、最初に言ったように、保護者、地域住民でそういった教育環境をどう解決するのか、今、それに対して豊岡市ではどのようなことを行っているのかを説明する必要があるという事で、昨年の 7 月と 8 月、市内 7 会場で説明に回りました。非常に地域差があって、たくさん集まっていた地域、そうではない地域がありましたが、説明をしてまいりました。

最近の現状ですが、新小学 1 年生、次に入学する子どもたちが、例えば 2 人とか 3 人とか、中にはゼロというところもあるのですが、そういった少ない規模のところの子どもたちは、転居してしまう。あるいは、おじいちゃん・おばあちゃんが近くの小学校の人数の多い校区に住んでいるの

で、そこに帰るという理由で、校区外就学とあって、校区を跨いで就学する、そういった希望や、どうすれば、別の学校に通えるのかという問い合わせも増えてきている、そのような状況です。

以前は、「学校が地域から無くなると、地域が寂れる。」そう言っていました。今は、学校があるために出て行ってしまうので、かえって、学校が残ることによって、地域が寂れるといった状況が生れてきています。

昨年の12月ですが、奈佐地区では、PTAと区長会が合意形成をして、設置者である豊岡市に奈佐小学校の統合についての要望書が出されました。他にも今、そういった動きをしているところがあります。

考えなければならないことは、もちろん、「子どもたちにとってどうなのか」ということですが、「数が少ないので隣と隣で統合します」といったことではなく、そのことによってどのような教育ができるのかといった、教育環境・教育方法を一体的に考えて行きたいと考えています。というのも、豊岡市が独自にやっている教育の特徴というのがいくつかあり、その一つが演劇の手法を用いたコミュニケーション教育です。小学校6年生と中学校1年生、すべての学校でやっています。ところが、学年に2人とか3人とかしかいなかったら、コミュニケーション教育が成立しない。そのため、バスを借りて、時間をかけて隣の学校まで行って、集団を作ってやらなければならない。かなりの無駄が生じています。また、国の方針として、「思考をつなぎ合わせながら、対話的な学びをしよう」と言っていますが、対話できるような環境ではないということです。これからの教育のことを考えると、心配なことがたくさんある。こういった状況の中で、声の上があったところだけ個別に対応するという事ではなく、声を上げたくてもあげられないという保護者、就学前児の保護者がたくさんいるという事が、教育懇談会のアンケートでよくわかってきたので、市全体でどのようにしていけばいいのか、皆さんのお知恵をお借りし、審議をしていただく、そういう趣旨の会であります。

だいたい、1年間で結論を出していただき、答申をいただき、そのあと、教育委員会で案をつくっていくという運びを考えています。皆様、それぞれ大変お忙しい中お集まりいただきました。今回お集まりいただいた皆さんは、ぜひ、委員になっていただきたいという方ばかりです。色々な地域、それぞれの立場からご意見をいただきながら、何度も言いますが、子どもたちにとってより良い結論が出ればと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

(2) 報告事項に対する質問等

《A委員（質問）》

資料では、教育コストについて出ていない。小規模校2つをひとつにすれば、教育コストが抑えられる。統合することによって、教育にかかるコストが確保できるのではないかと。そういう、お金の面はあえて考慮に入れないという考え方なのか。

《事務局》

今回の適正規模・適正配置の考え方については、あくまでも子どもたちの教育環境を整えるということに重点を置きたい。今後の協議の中で、コストについて検討する必要があると出てくれば、資料を準備させていただくが、お金がかかるから統廃合をするという事ではないということで、今回、そういった資料は入れてない。

《B委員（質問）》

複式学級の説明があったが、市としては、複式学級という体制はデメリットの方が大きいという考えか。

《事務局》

先ほどの説明の中にもあったが、複式学級になると担任の先生の高い専門性が求められること、同時に2学年の教材の準備をしなければならない等、先生の負担も大きくなる。

また、子どもたちも、背中合わせに、違う2学年が同じ部屋で別の授業を行うということは、お互いに気になってしまうなど、市としては、デメリットの方が非常に大きいと考えている。

また、豊岡市の教育課題の一つとして、特別な支援が必要な子どもたちへの対応がある。発達に特性のある子どもたちにどう対応するか、非常にいろいろなパターンがあるが、集中力が長持ちしないとか、周囲の音や動きに過敏に反応しやすいという傾向の子どもの場合、複式学級は、厳しい環境であろうと推測される。

複式学級の状況については、実際に見ていただく必要があるかと考えている。次回に見学をしていただくことを計画しているので、それぞれが、それぞれの判断で見ただけであればと思う。

《C委員（質問）》

資料3-2の最後のページに、奈佐小学校の統合の事が出ており、1月に統合準備委員会が設置されたとあるが、今回の審議会との関連はどのようになるのか。

この審議会は予定通りに進んでも、答申が来年度、その次に計画ということで、奈佐小の動きと外れることは理解できるのだが、奈佐小はそこまで待てなかったという事か。

《事務局》

奈佐地区については、2年ほど前に、地域の課題を考えるための会をつくり、検討を始められてきた。昨年4月頃には、「奈佐小学校を考える会」を置いて、5回ほど開催されている。

先ほど、教育長の挨拶でもあったが、奈佐でも、地区を出ていかれる方が多く、このままでは地区のコミュニティを守ることができないということから、地区から声があがり、PTAも一緒になって、要望があがってきたという事である。

奈佐以外にも、いくつか議論を進められている地区もある。この審議会では、来年度中に答申をいただいて、その後、市で計画を作り、計画を実行するまでに5年程度かかるのではないかと考えている。それまで待ってられないという地区については、審議途中であっても、個別の対応をさせていただくことを考えている。

《D委員（質問）》

奈佐小の動きについて、プレス等で公表されると、他の小規模校の地域にも動揺があったのではないか。この審議会が答申が出される前の動きということで、地域の皆さんに与える影響は大きかったのではないか。

《委員長》

資料3-2の最後のページの、奈佐小学校の統合の件については、既に公表されている内容という事でよいか。

《事務局》

新聞でも既に公表されている内容である。公表後、地域からの新たな問合せ等はないが、公表以前に、奈佐と同様に地域で検討されているという話は聞いており、審議が待てないという地域については、個別協議をさせていただくこととしている。教育懇談会でも、各地域で同様の話をさせていただいている。

地域の意向は優先させていただくという考えである。

《委員長》

お尋ねの委員の地域では、公表後、統合の話は出ているのか。

《D委員》

児童の数は50人以上いるので、そういった論議はまだ出ていないと思う。

《E委員（質問）》

複式学級の学力は、どうなっているのか。他の学校と比べて低くなっているのか。子どもが多い学校がいいのか、少ない学校がいいのか、学力等のデータはあるのか。

《事務局》

答えられる範囲でとなるが、今の学力調査の結果を学力とするのであれば、小さい規模だから、大きい規模だからと、それほど差はない。しかし、先ほどから申し上げているコミュニケーション能力であるとか、対話する力、非認知能力の頑張りぬく力・協働する力などは、点数に現れないので、むしろここは点数には表れないが、大切にしたいし、ハンデにはなっていると想定している。

(3) 審議事項

会議等の情報公開について 意見なし

(4) 意見交換

A委員

豊岡市は、小中一貫教育で、先進的に取り組んでいる。子どもたちがふるさと教育などを通して、今住んでいる豊岡に自信を持てるように取り組んでいるので、すべての子どもたちが希望をもって学んでいける環境になれば良いと考えている。

B委員

普段は、未就学児と触れ合っている。この審議会は、小学校・中学校の事ではあるが、先ほど教育長が言われたとおり、非認知能力が非常に重要になっていく。個「個人・個性」が、集団の中で磨かれていくような体制が取れたら良いと考えている。

C委員

幼稚園・保育園・認定こども園について、これから数年かけての統廃合が検討されている。それにあわせて、それからつながる小中学校についても、統廃合という事になるかどうかはわからないが、何かしらの対策をしていく必要がある。地域性という事も大切にしながら、それでもやはり、子ど

もたちのことを最優先に考えるのであれば、これから生きる子どもたち、まだ生まれていない子どもたちのことが中心になると考える。

こういった話になると、自分もそうだが、年齢の大きい人たちの声がブレーキになりがちになると思う。「自分の地域が」ではなく、市全体の事を考えて、子どもたちのことを第一に考えて審議していければと思う。

D委員

あえて言うならば、街づくり・地域づくりは、人づくりだと思う。その気持ちが我々の地域の保護者も強く、地域の保護者の8割方が、早く小学校が一つになって欲しいと考えている。どうしても地域の年配の方が、地域への思い入れも強い。その思いをどうするかということが一番の課題であると考えている。しかし、第一はやはり子どもたちのためであり、将来の豊岡の事を考えても、子どもたちの教育をどうするかという事が重要であると考えている。

E委員

教育というもののあり方が変わってきている。以前は、一人でコツコツと勉強をして、どんどん知識を蓄えていくことが良いとされていたが、現在は、自分からいかにアウトプットしていくか、ディスカッションで結論を出していくかという事が社会から求められている。大学受験でもそういう部分を中心になっている。いかに小さい子どものときから様々な価値観を取り入れて、自分の意見を発していくかという事が大事になってきているので、やはり、学校の規模というのは、子どもの将来に大きくかかわっていくものと考えている。

F委員

就学前の子どもがいるが、これから、子どもがどんな職業になりたいのかはわからないし、高校・大学と進むにつれていろいろな問題があると思う。その中で、自分の言葉でちゃんと表現する力を身につけてもらいたいと思う。たくさん的人数で話し合いの場が持てる学校であることが理想であると考えている。

G委員

引きこもりで、中学時代に不登校になって、10年20年という方もおられる。何が悪いという事はなく、良いところもたくさんある人たちである。それは個性でもあるが、非認知能力という面では、トレーニングができていないのではないかと思う。人間関係が固定されてしまうと、課題も出てくるので、色々な取組ができる規模となればよいと思う。

H委員

資料を読む中で、適正規模という事については大切なことであり、子どもたちにとって、将来に大きな影響を与えることであろうと感じている。統合ありきという事では困るが、現状については、十分認識できた。

自分も白紙の状態勉強をし、皆さんの話を色々聞きながら、考えて行きたい。

I 委員

小さな子どもを持つ保護者からは、小学校の統合についての会話が普通に出ている。奈佐小での統合についても話がでており、「どうすれば奈佐のように早く進められるのであろう」という声も聞こえてくる。今日、奈佐のことを詳しく聞かせてもらい、そういうパターンもあるのだと、審議会を待つと5年もかかるのだとわかった。

ある地区では、同級生が1人しかいない年もあり、この先も1人で大きくなっていくことになる。待ったなしの状態であると思う。現在、子育てをされているお母さん方の率直な意見を、代わりにこの会で伝えさせていただければと考えている。

J 委員

普段は、小学校入学前の低年齢の子どもと触れ合う機会が多いが、これから小学校に上がる子どもたち、その保護者たちの意見が重要であるとわかった。先ほどにもあったように、審議会の結果を待つと5年はかかる、そういった情報も保護者に投げかけていきたいと思う。

子どもたちが非常に少ないため、豊岡に土地を買って、来年、引っ越しをされるという話も実際に聞いている。本当に切羽詰まった状態であると思う。保護者の方もそうであるし、地域のつながりも大切にしながら、意見をお伝えできるように頑張りたいと思う。

K 委員

今の地域の課題を考えると、コミュニケーションの不足があると思う。地域のつながりが、ものすごく崩れている。その理由を考えると、子どもたちが育っていく中での地域力であったり、人数の関係もあるが、コミュニケーション能力の欠如があげられると考えている。どの規模が一番適正なのかどうか、この審議会の中で、意見を言ったり聞いたりして、学校のあり方を考えて行きたいと考えている。

L 委員

教育懇談会での、他の地区の方の話だが、校区外から学校に通われている方がいると聞いている。小規模の学校があるために、地域が寂れていくという例であると感じている。これを受けて、その地区では、統合の動きが出ているとも聞いている。

別件だが、学校の老朽化により、将来の建替について、教育委員会と地域住民とで意見交換会が行われたが、地域と保護者では意見が分かれている。遺恨が残らないように、なるべく早く、上手に進めていただければと思う。

M 委員

子どもたちが少ないので、人付き合いが苦手になっている、友だちと一緒に遊べないという事が原因かと思う。子どもたちは一緒にいても、別々にゲームをしている。また、辛抱ができなくなってきたりとも思う。

今の子どもたちは、物量的には恵まれているが、友だちと遊べないというのは気の毒だと思う。人は、人と接して磨かれていくものであり、人数が少ないことは、ある程度制限されてしまう。大人でも、付き合いがあれば、色々な人の意見や経験が入ってきて、磨かれると思う。そういった意味

で、子どもの教育というのは真剣に考えて行かなければならない。街づくりはこれからだと思うので、頑張ってやっていきたい。

N委員

自分には小さい子どもがおり、小学校入学前の子どもを持つ母親と接する機会が多いが、お母さん方は、「うちの子の同級生は〇人だ」と、小学校入学時の同級生の数を非常に気にしておられる。先ほど、コミュニケーションや人間関係の話をされていたが、私もそれが大事だと思っており、子どもは子ども同士で学ぶものだと思っている。夫の実家の地区は人数が少ないので、もし、その地区に帰ると、子どもが一年生になった時、ひとつ上の学年の子どもは6年生である。そうすると、住む地区も考えないといけないと、夫婦間で話をしている。子どもの未来にも関わる大切な話なので、母親目線で意見を出していきたい。

O委員

多くの方々が言われたように、子どもたちのために、どういった形が望ましいかという事だと思う。あとは、(資料に)小規模校のメリット・デメリットもあり、確かにその通りかもしれないが、保護者に説明をするときには、具体例を出した方が良いのではないか。既に、豊岡には統合した事例もあるのだから、何年か経ってみて、どうであったか、具体的に示せた方が効果的かと思う。

審議会として、いい作品ができることを願っているし、勉強もさせていただく。

P委員

これから技術革新によりICTも進んで、一人でも学べるようになる。しかし、先ほどにもあったように非認知能力により身につく、我慢する力や協調性などは、人の中で学ぶしかないと思う。

豊岡市の将来のために、前向きな意見を出していただけるようお願いしたい。

以上